

カタクチイワシ (せぐろいわし)



生態的特徴等

【生態】

日本周辺に広く分布し、太平洋側では夏季に千島列島周辺まで回遊する沖合回遊群と沿岸域周辺にとどまる沿岸回遊群がいると考えられている。沖合回遊群は秋から冬にかけて三陸～房総海域を南下する。産卵期は冬を除く周年（盛期は4～8月）で、太平洋沿岸の各地で産卵する。主に動物プランクトンを食べて成長し、1歳で成熟、寿命は4歳程度である。成長に伴って呼び名が変わり、シラス（体長：2.5～3.5 cm）、カエリ（4～5 cm）、ジャミセグロ（6～7 cm）、中セグロ（8～9 cm）、ゴボウ（10～11 cm）、大ゴボウ（12 cm～）と呼ばれる。

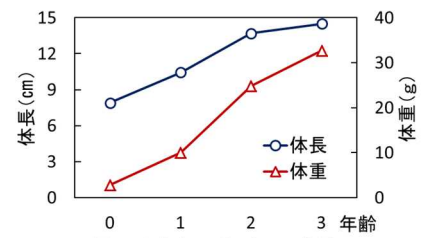


図1 カタクチイワシの成長

【漁法と盛漁期】

茨城県では、主にまき網で夏～秋にジャミセグロ～中セグロが漁獲され、冬～春にゴボウ～大ゴボウが漁獲される。シラスは船曳網で春～秋に漁獲される。

【利用】

カエリ～中セグロは煮干しの原料、ゴボウ～大ゴボウは目刺しや桜干しなどに加工される。生後1～2ヶ月のシラスはシラス干しの原料となっている。

資源は低位水準が継続

（漁獲量）千葉県から青森県沖で操業するまき網の漁獲量は、平成年代に入って急増し、H10～16年は10～20万トで推移したが、その後急激に減少してH27～29年は1.5～2.8千トとなっている（図2）。

（水準と動向）資源水準は、まき網による資源量指数で判断した。H7～H23年までは中位～高位で推移していたが、H24年以降は低位となっている（図3）。資源量指数の推移から、H29年の資源水準は「低位」、過去5ヶ年の資源量指数の傾きから、動向は「横ばい」とした（図3）。

水準



動向

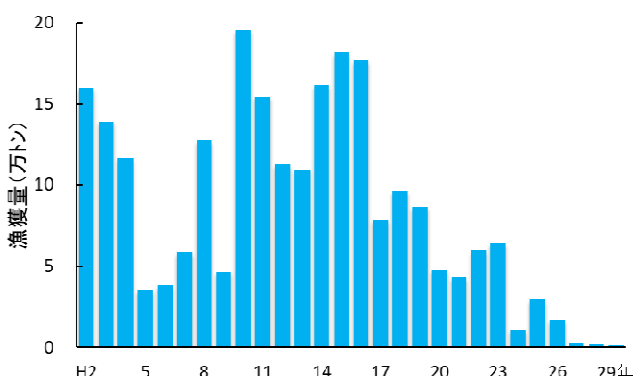


図2 カタクチイワシ漁獲量*1の推移

※1 千葉県から青森県沖で操業するまき網の漁獲量で、北部太平洋まき網漁業協同組合連合会の集計値

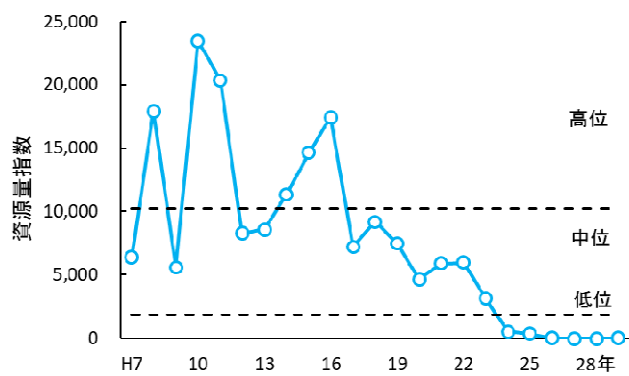


図3 カタクチイワシ資源量指数*2の推移

※2 資源量指数：まき網による緯度・経度10分マス目内の平均漁獲量の総和を日別に1年間集計した数値で、資源量の指標

【全国の漁獲動向】

・茨城県の漁獲量は全国第26位（H29農統）、1位は長崎県、2位は三重県、3位は愛媛県